

業種別意見ヒアリングを踏まえた カーボン・クレジット・レポートの方向性及び論点

2022年2月14日

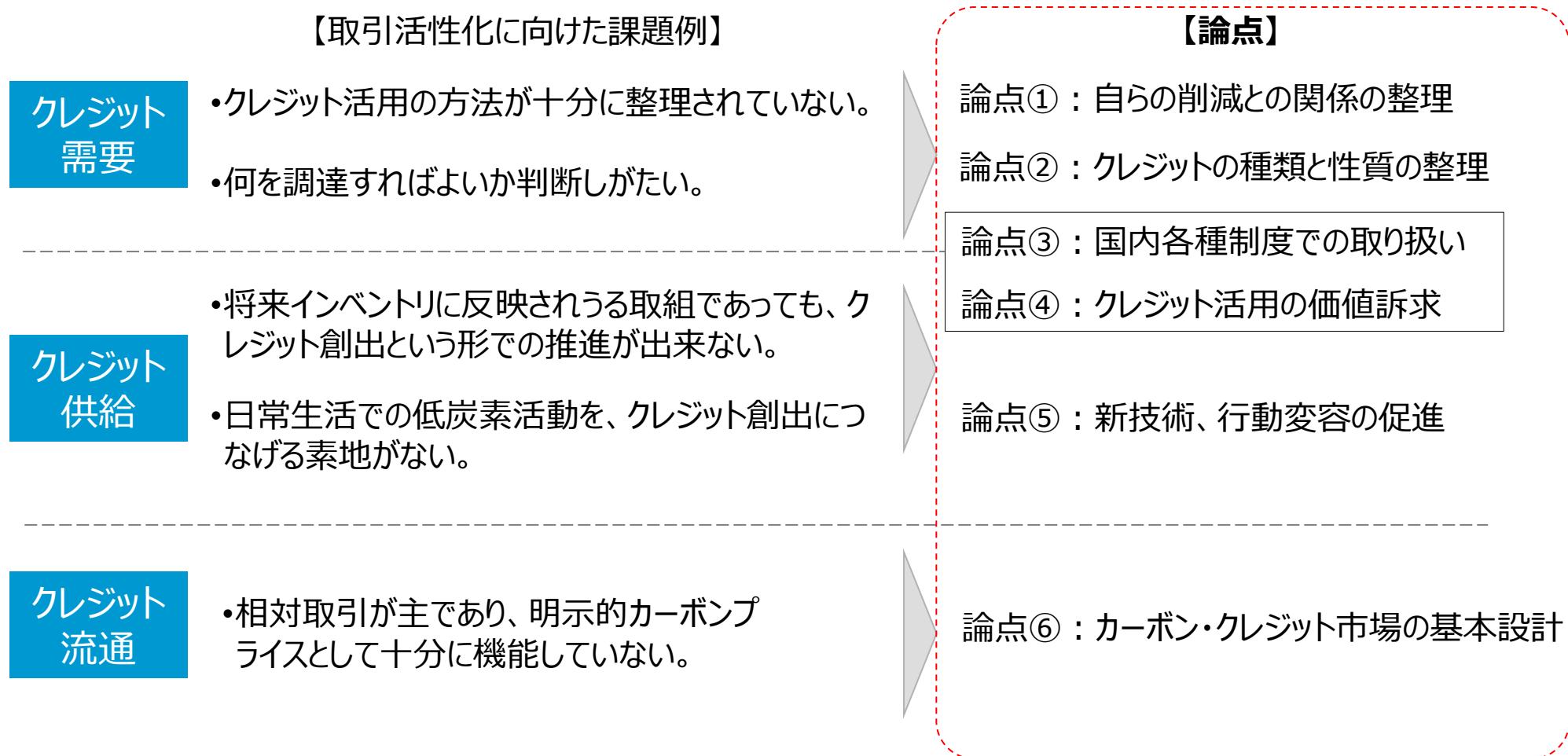
事務局

業種別意見ヒアリングを踏まえた”カーボン・クレジット・レポート”的方向性

- 業種別意見ヒアリングにおいては、第1回検討会での論点提示を踏まえて、参加事業者からそれぞれの論点についての様々な意見が表明された。
- カーボン・クレジットを活用したオフセット活動を実施する産業界からは、オフセット活動が国内制度も含めて広く評価されることに対する期待を示す声が多かった。一方で、国際的には、一部のNGO等からは、カーボン・クレジットを活用した排出のオフセットについて、手法の正当性やモニタリングの適格性等の観点から批判的な意見が表明されている。
- このため、懸念点や留意事項についても考慮に入れた上で、カーボン・クレジットの利活用がどのように、世界全体のカーボンニュートラル実現と、その中の経済成長に貢献することができるのか、を考えていくことが重要。
- よって、本検討会のアウトプットとしてのカーボン・クレジット・レポートについても、日本国内の個別制度におけるカーボン・クレジットの位置づけについて整理するだけのものではなく、国際的なカーボン・クレジットの取扱いに係る議論の前提を適切に踏まえた上で、それらの議論においても十分に参考可能な”カーボン・クレジットを活用するにあたっての基本的な考え方”と”それを踏まえた政策の方向性”を併せて示すことで、国内のプレイヤーによる適切なカーボン・クレジットの利活用を促していく必要があるのではないか。
- 上記の前提で、業種別意見ヒアリングにおいて提示されたそれぞれの論点について、レポートで示すべき方向性について議論をすべきではないか。

カーボン・クレジットに係る課題に対する論点（第1回検討会より再掲）

- カーボン・クレジットに係る課題については、それぞれ下記の通り、対応する論点を整理できる。



第1回検討会及び業種別意見ヒアリングを受けた新たな論点の提示

- カーボン・クレジットに係る論点について、第1回検討会及び業種別意見ヒアリングを受けて、それ下記の通り、第1回検討会に提示した論点から新たな論点を深堀できる。

【第1回検討会に提示した論点】

論点①:自らの削減との関係の整理

論点②:クレジットの種類と性質の整理

論点③:国内各種制度での取り扱い

論点④:クレジット活用の価値訴求

論点⑤:新技術、行動変容の促進

論点⑥:カーボン・クレジット市場の
基本設計

【第1回検討会及び業種別意見ヒアリングを踏まえた論点】

自身による削減が優先し、なお残る残余排出におけるカーボン・クレジットの活用という整理に異論なし

論点A:相当調整のなされていない
海外ボランタリークレジット活用時の品質の担保

論点B:相当調整のなされていないボランタリークレジットの国内制度における「直接排出」への適用

論点C:カーボン・クレジットを商品・サービスに付し
環境価値を訴求する際の表示

論点D:技術ベースでの除去クレジット
(DACCs,BECCS) やブルーカーボン等の新たな
クレジット創出促進への期待

望ましい基本設計について、引き続き検討

需要

供給

流通

需要面における新たな論点とその方針案

- カーボン・クレジットに係る、需要面に対する下記の論点及び御意見については、レポートにおける方針案を下記のとおり整理すべきではないか。

論点	ご意見	方針案
【論点A】 相当調整のなされていない海外ボランタリークレジット活用時の品質の担保	<ul style="list-style-type: none">相当調整のなされていない海外ボランタリークレジット活用時の品質について、誰が担保し認証するか整理の要望あり。（金融、別紙概要資料P,5参照）	<ul style="list-style-type: none">クレジット活用側が、CORSIA適格やICVCMのCCP等国際的な基準を参考するなど、自らクレジットの選定基準を示し、そのクレジットの品質に関する説明を行うことが必要ではないか。
【論点B】 相当調整のなされていないボランタリークレジットの国内制度における「直接排出」への適用	<ul style="list-style-type: none">基本的に、NDC貢献クレジットの創出量が少ないとから、移行期における直接排出適用への要望が強い。（エネルギー・金融・航空、別紙概要資料P,3・P,5・P,8参照）他方で、ボランタリークレジットとNDC貢献クレジットの棲み分けをしつかり行うべきという意見もある。（エネルギー、別紙概要資料P,4参照）	<ul style="list-style-type: none">国内制度における「直接排出」においては、国の削減目標に対する貢献度やMRVの正確性の観点から、相当調整済クレジットでのオフセットに限定することが必要ではないか。他方、相当調整済クレジットの創出量が少量であることは確かであるため、移行期において、質の担保されたものについては、国内制度においても、「サプライチェーン排出」への活用を認めてもいいのではないか。
【論点C】 カーボン・クレジットを商品・サービスに付し環境価値を訴求する際の表示	<ul style="list-style-type: none">検討会委員より、クレジットでオフセットした製品におけるCN表記について、IPCC第6次評価報告書との整合性の観点から、各ヒアリングで問題提起あり。クレジット活用はレビューーションにも関わるために、開示ルールの整備についても要望あり。（航空、別紙概要資料P,8参照）	<ul style="list-style-type: none">カーボン・クレジットを適切に活用するため、カーボン・クレジットを商品・サービスに付した際の表示について、より深掘った議論が必要ではないか。

供給面における新たな論点とその方針案

- カーボン・クレジットに係る、供給面における新たな論点及び御意見については、レポートにおける方針案を下記のとおり整理すべきではないか。

論点	ご意見	方針案
<p>【論点D】 技術ベースでの除去クレジット (DACCs,BECCs) やブルーカーボン等の 新たなクレジット創出 促進への期待</p>	<ul style="list-style-type: none">新技術促進の観点から、新たな枠組み構築の希望あり。 (航空、別紙概要資料P,8参照)足許の創出状況では、金融機関がマーチャントリスクを取 れないところがあるので、価格形成メカニズムの明確化や豪 州のように政府による買い取り保証を導入する等、価格の 予見性向上等の工夫を検討いただきたいとの要望あり。 (金融、別紙概要資料P,5参照)技術ベースの除去クレジットやブルーカーボンは高コストであ るため、市場価格で決まるクレジット価格に加え、補助金 等によるインセンティブの要望あり。(商社、別紙概要資料 P,7参照)	<ul style="list-style-type: none">技術ベースでの除去クレジット (DACCs,BECCs) やブルーカーボ ン等の新たなクレジット創出促進のた めには、<u>政府による何らかの後押しが 必要。</u>政府による後押しについて、どのような 枠組みが効果的であると考えられるか。

今後の検討の進め方

- 業種別意見ヒアリングを踏まえ、今後の本検討会における検討は、下記の通りのスケジュール案とする。

2021年12月8日（水）第一回検討会

テーマ：産業界での活用状況、国際的な議論動向の紹介
「論点と検討の方向性」の提示

2022年1～2月 事務局による業種別意見ヒアリング

エネルギー・取引所・金融・商社・航空・国内独自取組事業者等に実施

【スケジュール】

2022年2月14日（月）第二回検討会（本日）

テーマ：業種別意見ヒアリングの振り返り、「レポート骨子案」の提示

2022年3月中～下旬 第三回検討会

テーマ：「カーボン・クレジット・レポート案」の提示

レポート案についての意見募集

2022年5～6月頃 第四回検討会

テーマ：「カーボン・クレジット・レポート案」への意見募集を踏まえた内容の検討

レポート公表

本日ご議論いただきたいこと

- 業種別ヒアリングの結果等も踏まえて、下記のような論点について、ご議論いただきたい。

<カーボン・クレジット・レポートの基本的方向性>

- これまで全体像の整理がされていなかったカーボン・クレジットに関して、教科書的な解説を入れつつ、今後の方向性を打ち出すことにしているが、別添の「レポート骨子」の方向性に違和感はないか。

<ヒアリングにおける個別論点について>

- 前述の論点A～Dに関して、事務局の方針案について、どのように考えるか。

<別添骨子における「今後の方向性と具体策」について>

- 別添骨子の「今後の方向性」に関して、前述の論点A～Dの観点で、事務局の方針案について、どのように考えるか。
- 次回検討会までに、「具体策」を議論するに当たって、参考にすべき事例や取り組みはあるか。

<レポートの発信及びメンテナンスについて>

- 国内のみならず、海外に対しても発信する際に、留意すべき点はあるか。
- また、国際的に動きの速い本分野に関して、このレポートを契機として、どのような形でカーボン・クレジットのエコシステムを形成していくとよいか。